

# ペンギンの研究者に インタビュー



## いとう けんたろう 伊藤 健太郎さん

### プロフィール

- 北海道出身。北海道大学卒業、総合研究大学院大学在学中。専門は動物行動学。
- 第58次南極観測隊に参加。
- 好きなペンギンはアデリーペンギン。

(2019年7月現在)



どうしてペンギンの研究に興味をもったのですか？  
ペンギンの魅力を教えてください。

子どもの頃は昆虫や魚などの家で飼育できる生き物にしか関心がなかったのですが、どうしてペンギンに興味を持ったのかは自分でもよくわからないのですが…。たまたま水族館でペンギンを見る機会が何度かあり、その頃に友人から「極地の探険・南極」という本をもらったことがきっかけかもしれません。そして書店でペンギンに関する本をみつけて読んでいくうちにバイオロギングという研究方法を知り、ぜひやってみたいと思うようになりました。これはペンギンに小型のセンサーを取り付けて、直接観察できない海中などでの行動を記録するという方法です。まるで未知の惑星へ探査機を送り込むような、まったく新しいデータを得られるエキサイティングな研究だと思いませんか？



ご自身の研究内容を教えてください。

南極の夏の間、アデリーペンギンたちはルッカリー（集団営巣地）から海に出て食べ物（オキアミ）を食べて、満腹になると戻ってくるという行動を繰り返しています。そこで私は、昭和基地の近くにあるニカ所のルッカリーでペンギンたちにGPS（位置を記録する装置）などを取り付けて、海のどこでオキアミをとっているかを調べています。ニカ所のルッカリーのペンギンたちが同じ場所に行ってオキアミを食べると混雑してしまうせいか、やや異なる場所で食べていることがわかりました。さらに、海に浮かぶ氷が多い年にはその傾向がよりいっそう強くなり、まったく違う場所で食べることもわかってきました。



【ペンギンにデータロガーを装着中（左）】



子どもたちにむけてメッセージをお願いします。

いま思い返すと、子どもの頃に読んだ本や体験した出来事（ホタルを飼った、天体望遠鏡で星雲を見た、パソコンでゲームを作った、などなど…）は今でもはっきり覚えていますし、自分のその後の人生にも大きく影響しているようです。私は飽きっぽいのでいろんな遊びを取っかえ引っかえしていました。みなさんも高校生くらいになるとどうしても勉強に時間を割かなければなりませんから、その前にできるだけいろいろな経験をしてみると良いと思います。といっても無理してがんばるのではなく、好きなことを気のおもむくままにやって熱中していればベストです。ふだん暇な時間があるとスマホをさわってばかりという人は、それ以外にひとつでも夢中になれる“遊び”を見つけてみませんか？